

### 1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	2296300029		
法人名	医療法人社団 緑風会		
事業所名	認知症対応型共同生活介護 たんより(かわせみ、さざんか、ユニット合同)		
所在地	静岡県周智郡森町草ヶ谷212-1		
自己評価作成日	平成26年1月27日	評価結果市町村受理日	平成26年3月4日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigvoCd=2296300029-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022">http://www.kaijokensaku.jp/22/index.php?action_kouhyou_detail_2013_022_kani=true&amp;JigvoCd=2296300029-00&amp;PrefCd=22&amp;VersionCd=022</a>
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	有限会社システムデザイン研究所
所在地	静岡市葵区紺屋町5-8 マルシメビル6階
訪問調査日	平成26年2月18日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

安全な生活の実現を目指します。家庭的な生活環境の提供。尊厳のある生活重視、残存機能を生かした生活を援助、地域社会とのつながりの重視、ボランティアにおける催しの実施(囲碁・音楽・ゲーム・紙芝居)医療との連携を密にし、重度化に対応。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

「みんなで今から歩け歩けをします」利用者の館内放送と共に音楽が流れ、一斉に歩行練習に励む姿には目を見張るものがあります。入院中は歩行していなかった98歳の人が、退院後事業所に戻りすぐに歩いたという例もあり、コミュニケーションツールとして居室をまわる回覧板も継続され活力にあふれています。地域性にも恵まれ、畑を気にして管理してくれる人や、名前も告げずにおすそ分けの野菜を玄関に置いて行く人、『森町もりもりボランティア』の多面的な行事協力もあり、我がことのように想うあたたかさに囲まれて、楽しみながらADL維持を図ることに長けた職員と、利用者の穏やかな表情は満たされた日常を物語っています。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
56 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60 利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62 利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I. 理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	・理念は「やさしさ」「安心、安寧」ゆったり穏やかな暮らし、安心な生活の実現を目指します。玄関に掲示し、日々意識するようにしている。	事業所立ち上げにあたり職員皆で考えた理念は簡潔でわかりやすいのが特長です。『たんよりの心得15条』はミーティングで意識づけ、午後のショートカンファレンスでは職員輪番で気づきを出し合い、共有しています。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	・たんより通信を町内会長にお願いして、回覧板に入れてもらっている。民生委員さんや近隣の方から不要なタオルや野菜、果物等の差し入れがある。	本部を介しエアロビ体操や紙芝居といった多彩な森町ボランティアの訪問があります。畑の指南を初め、野菜のおすそわけは名前も告げずに玄関に置かれるほど、助け合い精神の土地柄で日常的な交流があります。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	・スタッフ内勉強会で「認知症とは」の勉強会を行った。運営推進会議時配布した。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	・日々の生活の様子や現在のとり組み状況を報告している ・地域の行事等情報を教えてもらい参加させてもらっている(祭典)	2ヶ月ごとに定期開催し、町内正副会長、民生委員、地域包括支援センター、家族代表の参加を得ています。本年は防災面で地域から協力があり、火災時の支援を具体的に検討するまでに至っています。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	・包括支援センターの担当者とは事あるごとに連絡を取り対応している。	困りごとは窓口に相談し、丁寧に応じてもらえる関係にあります。運営推進会議に地域包括支援センター職員の出席もあり、3ヶ月に一度の介護相談員の訪問では利用者の話にじっくり耳を傾けてもらっています。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	・身体拘束0宣言を玄関に掲げ身体拘束をしないケアに取り組んでいる。	夜間を除いて玄関は施錠していません。法人の拘束排除委員会に毎月出席し、言葉の拘束や転落防止のためのベッド柵など職員が意識をもってケアに取り組めるよう内部研修を行い、また言葉を受け止める人の気持ちに立った声かけを検討しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	・何が虐待に該当するのか実際の日々のケアの中で検討し、話し合いを行なっていく。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	・全体で勉強会を実施していく。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	・契約にはゆっくり時間をとり、一方的にならず相手の立場を考え、疑問不安になりそうな事を出来るだけ引き出しご安心頂けるよう説明することに努めている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	・外出や食事等本日の予定を利用者に回覧板で回して確認のサインをもらっている。 ・面会時に入居者の様子を伝え、家人の要望を聴いている	面会も頻回にあり、意見や要望を直接聞けています。状態変化を細目に連絡していますが電話の時間帯についての苦言もあり、緊急のほかは慎重に判断しています。家族と食卓を囲んで談笑する機会も設けています。	家族間の交流頻度が今後も増えることを期待します。
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	・毎日ショートカンファレンスを行ない、現在の問題点やこまり事等を話し合っている。スタッフの意見交換の場としている。	毎日のショートカンファレンスでは食事形態にまで及んで話し合われ、また現場での気づきや改善提案は主任に報告される一方で、法人事務局からは事業所の強みや向上点を知るための意向調査が行われています。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	・休憩がしっかり確保できる様、時間と場所を提供している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	・認知症ケアでは現場で働きながら学ぶことで経験し、理解していくことが大切であると考えている。スタッフ間で勉強を実施した。 ・必要な内容に沿って9項目の外部研修に参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	・他施設研修を行なっていく。		
<b>II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	・事前面談の際に、ご家族、入居者から不安なことや、生活歴、大切にしている事等を出せるだけ伺い、入居前に理解を深める工夫をしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	・面接、契約は管理者、職員で行ない、それぞれの視点から不安点、何を求めているかをお話して頂き当施設の様子、どのような対応が出来るかをお話する様努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	・ケアマネージャーから相談があった時、面接を行い、適切な施設入所を提案している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	・ご本人の状況などを報告し、相談しながら、ご家族の力もお借りしてケアをすすめている。皆で共同生活を共にする姿勢で行っている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	・関係を継続して頂ける様、行事への参加の呼びかけをし、一緒に楽しんで頂いている。あまり参加して頂けないご家族様も手紙や電話などで関係を継続していただき、安心して頂けるよう努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	・日々の会話などで昔の思い出話を引き出し、行きたい所へ出掛けたりしている。	知人や友人の訪問が多く、家族と散歩や冠婚葬祭、旅行に出かける人もあります。地方紙に掲載される地域の話題を読み上げることで会話も弾み、コミュニケーションツールとしての回覧板が継続されています。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	・趣味を一緒にやったり、気の合う方同士、自然な形で触れ合うよう職員で調整している。一緒に外食、買い物も行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のスタッフに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	・退居後も他施設や、お見舞いへ行き、状況をお聞きしたり、お話しに行く等していく。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	・日々のケアの中で思いや意向を把握できるよう努力している。コミュニケーションをとることが困難な利用者は表情を観察したり、ご家族と相談したり、生きてこられた背景や地域の特性を考慮し最善の介護を検討している。	様々なアプローチによって表出された言葉や表情から想いを推し量っています。入浴ではリラックスして「実はね」「内緒だよ」と話が始まり、また本心が聞けるときでもあり、貴重な発語として介護記録に記載しています。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	・契約時、面談時等でお聞きし、アセスメントを作成している。今までの生活状態がいつでも把握できるよう情報共有している。スタッフ1人ひとりが確認し、把握する様努めている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	・日々の生活の様子を記録し、スタッフが確認できるようになっている。変化があればその都度相談し対応している。個々の出来ることを各担当者が考え、継続的に出来るよう努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	・面会時にご家族に現状報告をし、要望等を伺う様にしている。面会にあまり来ることができないご家族には、電話等で把握する様取り組んでいる。	担当制をとっており、より深くその人を知るためにセンター方式シートを活用しています。介護記録や本人、家族からの要望をもとに各ユニットで計画作成しケアマネージャーがプラン化しています。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	・対応したケアをカルテに記入し、共有するようにしている。気づきや失敗したことも記入する事により次につなげる努力をしている。変化がある場合は、ショートカンファレンスで話し合いをして共有している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	・状況変化に伴い、通院等必要な場合には、柔軟に対応している。要望に応じて、外出支援等行っている。入院された場合においても何回かお見舞いに行き、現状の把握をしたり、安心して頂ける様にしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	・地域の消防署に避難訓練、ボランティアの方に協力を頂いている。行事などで、ボランティアの方のショーや催し等も実施している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	・月1回の協力機関の往診を受けている。その他で必要になった場合は、協力医を受診している。必要な時に歯科往診もある。	協力医療機関は医療情報連携システムで標準化された管理ができることや、一貫性が図れる訪問看護師と24時間連絡が取れる体制にあります。全員が協力医に変更していて、状態変化の早期発見に繋がっています。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	訪問看護ステーションとの契約により、週1度の状態変化に対し、相談、助言、処置はもとより日々の状態変化に24時間対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	・病院関係者に対して必要な情報を提供して状態等の確認を相互しながら早期退院に協力している。 ・ご家族とも相互連絡をとり、情報を交換している		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	・当事業所が対応できる最大の支援内容の重度化した場合における対応にかかる指針を書面で説明し、同意を頂いている。状態変化があるごとに話し合いをして意向を大切に、支援につなげている。ご家族の意向も医師、訪看と共有している	現在まで看取りの実績はありませんが、職員の受入れ体制を整えていく段階にあり、重度化や終末期に向き合う方針です。契約時には家族と合意形成できていますが、医療や家族の協力体制に応じて都度相談していく考えです。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	・ホームにマニュアルを完備させている。今後消防署による応急手当の講習も実施していきたい。避難訓練でも応急手当などを実施していきたい。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	・月2回全員で避難訓練を行なっている。 ・運営推進会議時、防災について議題にあげている。	法定訓練に留まらず毎月2回実施し、利用者には避難行動が身につけています。運営推進会議では、火災に限定して地域から得られる協力策が練られています。3日分の備蓄と発電機、プロパンの備えもあります。	夜間想定や、発電機の使用方法が訓練に盛り込まれることを期待します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	・グループホームの15ヶ条の中に人権の尊重に関する項目があり、会議を通して再認識する様努めている。	接遇研修に参加し、ホーム会議で伝達講習を行いました。さん付が基本でも「ちゃん」と呼ぶことで反応がよいこともあり、使い分けしています。申し送りでは声を潜めインシヤルトークとし、同性介助の希望にも応じています。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	・利用者個々に合わせたペースで意思確認、決定して頂くよう支援している。ご本人にとって良き理解者となるよう支援に努めている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	・日々変化していく利用者の健康、精神状態に対応するケアを実施している。日課は一応の基準であるが変化に合わせた支援を実施している。日々自分らしい共同生活を楽しめる様に支援に努めている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	・出張美容師さんに来てもらい、カットして頂いているが、利用者の希望を取り入れ家族と行かれる方もいらっしゃる。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	・調理は手伝っていただけの方と一緒にいる。準備片付けも入居者中心に行っている。外食も時に行っている。状況にあわせ、全粥、キザミ、ミキサー、トロミ食を提供している。	法人本部のメニューをベースに利用者の嗜好に添って調理しています。利用者買い出しに出かけ、また誕生日には個別リクエストに応えています。正月はおせちとお餅で祝い、手作りおやつもあります。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	・毎食摂取量を把握している。摂取量の少ない方に水分補給ゼリーを増やしている。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	・毎食後口腔ケアを行なっている。毎夕食後義歯はホリデントにつけている。毎水曜日には森町病院歯科の往診を受け、異常時には処置を受けている。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	・排泄回数や時間を毎日チェックしている。訴えない方は定期的(時間で)トイレ誘導を行なっている。	排泄表に従ってパターンを把握して、声かけ誘導を行っています。リハパンだった人が布パンツになり、パッド代が減ったと喜ぶ家族もあり、「その人にとって良い方向を」と職員が同じ想いで接しています。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	・毎朝牛乳を飲み、排泄を促している。毎日音楽体操や散歩を行なっている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入浴は毎日あり、希望があれば随時入浴して頂けるよう支援している	湯は毎日準備して週2～3日ペースで入浴し、希望があれば毎日でも可能です。入浴後にノンアルコールビールを愛飲する人もいます。ミスト浴も設置され、また皮膚疾患には早い段階での処置が叶う仕組みもあります。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	・個々の生活リズムを整えるよう個々の休息、昼寝の支援や体調による休息をとっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	・処方箋はカルテにとじ、すぐ確認できるよう管理している。 ・服薬は毎食前後、手に渡し、飲み終わるまで確認することとしている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	・畑仕事の経験のある入居者は畑を役割として頂いたり、女性は洗濯物を干す、たたむ、布団を干す等の役割をになっ頂いている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	・天気の良い日は散歩やドライブなど出来る限り外に出る支援を行なっている。	事業所周辺が散歩コースとなっていて、天気の良い日は冬季でも玄関先やウッドデッキでの外気浴を行っています。初詣や梅、桜、紅葉の季節外出、遠州PAへの外食や花鳥園へのドライブ、牧場で食べるソフトクリームも喜ばれています。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	・個別におこずかいを預かっている。個々に購入希望がある場合は一緒にお店に行き、購入している。支払もご本人が出来の方は行なっている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	・電話、手紙など申し出がある時はすぐに対応している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	・心地よい音楽を流す(大正音楽、演歌等) ・食卓、ソファ等配置変えを実施している。 ・行事の時の写真を掲示している。	出かけた折に購入の鉢植えや華道をたしなんだ人の生け花、人気歌手のポスターが掲示され生活感が滲みます。利用者の声で館内放送が入り、歩け歩け運動が始まり午後にはさらに活気があります。コンタクトポイントの消毒、朝夕の清掃で感染症を未然に防いでいます。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	・ソファやいすをさまざまな場所に配置し、安全な環境作りをする等工夫している。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	・馴染みの家具を持参したり、写真、思い出の品を利用し、ご本人の好みの居室になる様配置している。	筆筒やぬいぐるみ、鏡台の持ち込みを視認しました。備え付けベッドを使わず畳に布団を敷いて寝起きする人、また持参した仏壇に毎日手を合わせる人もいます。チェック表で居室清掃とシーツ交換が管理されています。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	・各部屋の名札を配置している。混乱が発生する入居者は大きい名札を使用したりと、その都度検討し対応している。		